

## 平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

### 1 めざす学校像

「夢をつなぐ、文化をつなぐ、地域をつなぐ」総合学科高校

「つなぐチカラ」(知識・技術・情報をつなぐ活用するチカラ、人と人をつなぐ協働するチカラ、自分と社会をつなぐ自立するチカラ)を育むことで、社会に貢献する人を育てる。

1. 多様な進路希望を持つ生徒に対し、「活用するチカラ」を育み、「夢をつなぐ(夢を叶える)」学校をめざす。
2. 多様な文化を認め、共に生きることで、「人権意識」、「他を思いやる心」を持つ「協働するチカラ」を育み、「文化をつなぐ」学校をめざす。
3. 「安全で安心」な学校生活、地域との連携の学びから、「自立するチカラ」を育み、「地域をつなぐ」学校をめざす。

### 2 中期的目標

「生徒ファースト～達成感・充実感・納得感～」を基本的な考え方とし、一人ひとりの生徒の多様な学びと進路を実現する教育内容と教育環境の一層の充実を図る。

\* 学校生活満足度(学校に行くのが楽しい・自分のクラスは楽しい、平成 30 年度 69%)を 2021 年度には 80%以上をめざす。

#### 1. 夢をつなぐ(確かな学力と進路実現)

(1) 生徒の達成感のある授業をめざし、「深い学び～視覚化・構造化・協働化～」をテーマに授業充実に取り組む。

ア 授業アンケート、授業充実研修、授業見学週間、授業公開を活用し、「深い学び～視覚化・構造化・協働化～」をテーマに授業充実に取り組む。

「安全で安心な授業環境づくり」として、「授業の決まり」を徹底し、コアカリキュラムの探究型学習をはじめ、「深い学び」のある授業をめざす。

\* 生徒向け学校教育自己診断における授業の満足度(平成 30 年度 64%)を 2021 年度には 72%以上をめざす。

\* 生徒向け学校教育自己診断における選択科目の満足度(平成 30 年度 80%)を引き続き 80%以上を維持する。

(2) 希望する進路を実現できる「確かな学力」の育成

ア 「総合的な学習の時間」や LHR の時間に、3 年間を見通したキャリア教育や人権教育を実施し、多様な進路希望を持つ生徒それぞれの夢の実現を図る。

そのため、進学説明会、就職説明会、分野別説明会、進路体験学習、インターンシップなどを一層充実させる。

\* 生徒向け学校教育自己診断における進路指導関係の項目の満足度(平成 30 年度 72%)を 2021 年度には 75%以上をめざす。

\* 学校斡旋就職率 100%、希望する大学・短大・専門学校への進路実現率 95%を維持する。

#### 2. 文化をつなぐ(「人権意識」が身についた「他を思いやる心」をもつ生徒の育成)

(1) 総合的な学習の時間や LHR で人権教育を一層充実させることで、生命と人権を尊重し、他を思いやる「豊かな心」を持つ生徒を育成する。

ア 「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒」の学習状況や活動状況を校内で共有し、「日本人生徒」との共生を図る。

\* 生徒向け学校教育自己診断における人権に関する項目における肯定率(平成 30 年度 80%)を引き続き 80%以上を維持する。

#### 3. 地域をつなぐ(安全で安心な学校づくりと地域に信頼される学校づくり)

(1) 生徒の納得感のある指導により、規範意識の醸成と個々の生徒への支援を行う。

ア 全教職員で生徒の基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成をはかり、安全で安心な学びの空間を作る。また、保護者や関係諸機関との連携を図り、教育相談体制をさらに充実させて、課題を抱える生徒の支援を行う。

\* 生徒向け学校教育自己診断における生活規律等の基本的な生活習慣に関する項目の肯定率(平成 30 年度 70%)を 2021 年度には 75%以上をめざす。

\* 保護者向け学校教育自己診断における生徒指導に関する項目の肯定率(平成 30 年度 74%)を 2021 年度には 80%にする。

イ 「高校生活支援カード」等を活用し、課題を抱える生徒の状況把握に努め、必要に応じて支援や外部機関等との連携に努める。

\* 生徒向け学校教育自己診断における教育相談に関する項目の満足度(平成 30 年度 54%)を 2021 年度には 55%にする。

(2) 生徒の充実感のある学校行事や部活動を通じて生徒の自主性、自己有用感を醸成する。

ア 学校行事や生徒会活動を通してやる気のある生徒のリーダーシップを育てる。

\* 生徒向け学校教育自己診断における学校行事、部活動、生徒会に関する満足度(平成 30 年度 76%)を 2021 年度には 80%以上をめざす。

イ 部活動の活性化に継続的に取り組む。

\* 部活動加入率は 50%以上をめざす。

(3) 地域連携

ア 学校から積極的に情報を発信し、開かれた学校づくりを推進する。

\* 近隣の中学校との連携や広報活動、地域連携授業、地域のイベントへの積極的参加等を通して、地域に根ざした学校づくりを推進する。

### 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 31 年 11 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学習指導等】 ( )内数値は昨年度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の 80(73)%、保護者の 87(81)%が「この学校には他の学校にない特色がある」と答えている。自校の特色を理解・意識して、日々の学習に取り組んでいる。</li> <li>・生徒の 79(76)%が「選択教科は工夫されていて自分の学びたいことを学べる」と答えている。総合学科への移行が完了する次年度の生徒満足度も注視し、教育課程の点検を行っていきたい。</li> <li>・「授業で自分の考えをまとめたり、パソコンなどを使用して発表する機会がある」81(65)%、「授業では実験・観察・実習をしたり、学校外へ見学に行く機会がある」58(43)%、「教え方に工夫をしている先生が多い」67(63)%と、主体的・対話的で深い学びの視点を意識した授業への取組が進んでおり、さらに多くの教科での実践を進めることで、社会で生き抜く力を育みたい。</li> <li>・「授業はわかりやすく、集中して受けることができる」が 71% [H29] 64% [H30] 65% [H31]と、上昇には転じなかった。授業規律と学習環境の維持は基より、授業の視覚化・構造化・協働化など、さらなる授業改善に取り組み、生徒が「つなぐチカラ」を身につける授業づくりに全校で取り組んでいくことが必要である。</li> </ul>	<p>第 1 回(令和元年 6 月 12 日)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育祭や文化祭を地域住民も見に行くことができるように案内をしてほしい。</li> <li>・体育祭での生徒の頑張っている姿を、すべての先生が見ることができるような役割分担の方法を検討するのが良い。</li> <li>・結婚と出生前診断をテーマに産業社会と人間で研究する際には、深く考察できるよう取り組むべきである。出生前診断について、家で親子で話をする機会が持てたことは意義があった。</li> <li>・学力は 3 年間かけて少しずつ伸ばしていきながら、部活動にも力を入れていくのがいい。</li> <li>・キャリアデザインでの取組は、職業への意識・興味・関心を高め、親子の会話も生み出している。また、生徒が自ら企業に働きかけることは良い。</li> <li>・校種間交流・地域交流・体験機会の創出で、で子どもたちのためになるような協力をしていきたい。</li> </ul>

府立成美高等学校

<p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導の面で 80(78)%の保護者が生徒を正しい方向に指導していると評価している。また、生徒指導の方針に共感できるという回答は 72(70)%であった。今後さらに常識やマナー、他者への思いやりや配慮に重きを置く本校の生徒指導に、生徒の視点に立った納得感のある指導を進めていくことが必要である。また、生徒の 74(70)%が「生活規律や学習規律の確立に力を入れている」、60(56)%が「学校生活についての先生の指導は納得できる」と答えている。「安全で安心な学校」を維持するために、全教職員が生徒の人権を大切にすることを前提としつつ、生徒指導は生徒の「つなぐ力」を伸ばし、様々な取り組みへの意欲を高めるための指導だという共通認識を持ってあたることが重要である。</li> <li>・「文化祭は周りとは協力しておこなえる」79(78)%、「体育祭は周りとは協力しておこなえる」78(78)%、「生徒会活動は活発である」72(71)%であった。今後も生徒主体の取組を創出する、これまでの教育活動を推進する。</li> <li>・今年度から複数の部活動で成美カップを実施し、中学校の部顧問や生徒に好評を博した。「部活動体験・仮入部などを通じて部活動の活性化に工夫している」70(65)%という生徒の評価を、クラブ加入率に結び付けられるよう、校内外での取組を粘り強く継続していかなければならない。</li> <li>・「人権について考える機会がある」87(80)%、「命の大切さや人間関係のルールについて学ぶ機会がある」76(73)%と、授業や特別活動を通して教職員で取り組んでいる人権教育の効果が徐々に進んでいる。人権を大切にしたい取り組みを今後も推進していく。</li> <li>・71(67)%の生徒、77(63)%の保護者が「先生はいじめなど私たち(子ども)が困っていることについて真剣に対応してくれる」と答えている。さらに多くの生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、教職員がアンテナを高めて日々の情報共有を行うとともに、組織的対応を徹底していく。</li> <li>・73(68)%の生徒が「授業やHR等で将来の進路や生き方について考える機会がある」と、また 77(77)%の保護者が「学校は将来の進路や職業などについて適切な指導と情報提供を行っている」と答えている。コアカリキュラムをはじめ、あらゆる教育活動が、生徒のキャリア教育に繋がることを教職員で再確認するとともに、進路指導部、学力育成部や学年が連携して取組を進めるとともに、進学講習等の指導にも取り組む必要がある。</li> <li>・「学校に行くのが楽しい」74(68)%、「自分のクラスは楽しい」75(70)%と、生徒の満足度が改善傾向にある。さらに生徒の満足度を高められるよう、全ての教育活動において「生徒ファースト」をテーマとして行ってきた取組を今後も進めていく必要がある。</li> <li>・「相談に適切に応じている」と答えた保護者は 79(76)%であった。今後も連携を密にし、共通認識を持って取り組むことが大切である。</li> <li>・「困っていることに真剣に対応してくれる」と答えた生徒は 71(67)%であった。一方、「担任の先生以外に保健室等で、悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」と答えた生徒は 60(54)%であった。生徒が気軽に相談できるようにするため、カウンセリングマインドをもって生徒と向き合い、信頼関係を高められるよう、研修を重ねるとともに、生徒と関わる時間の確保について検討する必要がある。</li> </ul> <p>【学校運営等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校は、家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っている」64(67)%、「学校のホームページをよく見る」40(46)%と、保護者評価が低下した。ホームページの活用、日墓の連絡、懇談等、あらゆる方法で学校の情報を保護者に伝える努力を重ねていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HPはいろいろな情報が載っていて、分かりやすく良い。</li> </ul> <p>第2回(令和元年10月3日)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パワーポイントを用いた生徒発表の中で、文字が見えにくいなど気になる点があった。プレゼン方法などの指導をしっかりとすることで、分かりやすい発表につながってほしい。</li> <li>・キャリアデザインが、体験だけで終わることなく、将来の職業と結び付けができるように、取り組みを進めてほしい。</li> <li>・キャリアデザインに生徒が取り組むための下地は、中学校でおおよそできていると思う。受け身ではなく、自身が発表する機会をつくることで、自信につながっていくので、取り組みをしっかりと進めるのが良い。</li> </ul> <p>第3回(令和2年1月27日)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業までに学校を離れる生徒については、教育を受ける機会が途切れることの無いよう、きめ細かな対応や支援が重要。</li> <li>・インフルエンザの予防接種についての啓発など、感染症予防対策が重要である。予防接種を受けた人数の把握をした方がいいのではないか。</li> <li>・特別授業を実施した時、授業が始まる直前まで、そして終わった後すぐに、スマホを触る生徒が増えたように思う。ゲームやSNSへの依存による健康被害や集中力の低下などの子どもへの影響が社会問題となってきている。外部研修も活用するなど、課題解決に向けて取り組んでほしい。</li> <li>・地域清掃、夏祭りや駅伝大会など、毎回、成美高校の生徒が多く参加してくれて、助かっている。</li> <li>・地震発生時の避難場所になっているので、文化祭の時に来校し、体育館を見ることができたのは良かった。</li> </ul>
---	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
生徒ファースト	「生徒ファースト」を基本的な考え方とした教育活動	「生徒ファースト～達成感・充実感・納得感」を基本的な考え方として、安全安心な授業環境づくりを行い、一人ひとりの生徒の多様な学びと進路を実現する教育内容と教育環境の一層の充実を図る。	学校生活満足度(学校に行くのが楽しい・自分のクラスは楽しい、平成30年度69%)を平成31年度には72%以上をめざす。	生徒向け学校教育自己診断における学校生活満足度は、令和元年度75%であり、目標を達成できた。生徒が充実した学校生活を送り、高い満足感が得られるよう、生徒ファーストを基本に今後も教育活動を行う。(○)
1 夢をつなぐ(確かな学力と進路実現)	(1)テーマ「視覚化・構造化・協働化」とした授業充実の取り組み ア 授業アンケート、授業充実研修等を活用した授業充実の取り組み イ ICTを活用した授業、アクティブラーニング授業の研究  (2)希望する進路を実現できる「確かな学力」の育成	(1) ア・「授業アンケート」を分析して課題を把握し、授業改善を継続する。 イ・授業充実研修でICTを活用した授業、「深い学び」を実践例とした研修を実施し、相互研鑽の場とする。  (2) ア・進学希望先に応じた小論文や面接指導の実施。 ・模擬面接、インターンシップ等を充実させる。 ・1年時から生徒の進路希望を把握し、進学講習体制を確立する。 イ・コアカリキュラムを通じて、キャリアガイダンスを充実させる。3年間に実施する各種説明会や進路体験学習を充実させる。	(1) ア・「授業アンケート」の「教材活用」に関する肯定的意見 80%を維持(平成30年度80%) ・生徒向け学校教育自己診断の選択科目に関する満足度80%以上をめざす。(平成30年度76%)授業に関する満足度70%以上をめざす。(平成30年度64%) (2) ア・生徒の希望する進路の実現率95%を維持。(平成30年度98.7%) イ・1回目の就職試験合格率70%以上を維持。(平成30年度74.1%)学校斡旋就職希望者の就職率100%(平成30年度100%)	(1) ア・「授業アンケート」の「教材活用」に関する肯定的意見は88%で目標を達成した。( ) ・選択科目に関する満足度79%であり、目標に1ポイント及ばなかった。教育課程の編成においては、生徒及び社会の状況を考慮し、点検を行っていく。( ) 授業に関する満足度65%と横這いとどまった。ICTを活用するなど工夫しているが、更なる授業充実が必要である。( ) (2) ア・生徒の希望する進路の実現率(3年生年度当初の進路希望が卒業時点で確定している割合)は90.6%である。( )3年次に自らの適性を踏まえ進路変更する生徒も少なからずいる。 イ・1回目の就職試験合格率は75.9%である。( )また、学校紹介就職希望者の就職内定率は98.2%である。( )卒業後継続指導により100%達成をめざす。
2 文化を学ぶ(人権意識が身についている)	(1)人権教育のさらなる充実 ア「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒」と「日本人生徒」との共生	(1) ア「総合的な学習の時間」やLHRで人権教育に関する指導を充実させるため、多文化理解公演を2回実施する。1年生は中国語理解LHRで中国等帰国生徒の卒業生との交流や中国食文化の体験などを行う。	(1) ア 生徒向け学校教育自己診断の人権に関する項目における肯定率85%以上をめざす。平成30年度80%)	(1) ア・人権に関する項目における肯定率は87%であった。今後も当事者との出会いや参加型の人権学習を計画的に実施していきたい。(○)

<p>3 地域をつなぐ(安全で安心な学校づくりと地域に信頼される学校づくり)</p>	<p>(1) 生徒の規範意識の醸成と個々の生徒への支援                  ア 基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成                  イ 教育相談のさらなる充実</p> <p>(2) 生徒の自主性、自己有用感の醸成                  ア 生徒会活動のさらなる充実                  イ 部活動のさらなる活性化</p> <p>(3) 地域連携                  ア 地域から信頼される学校づくり</p> <p>(4) チーム学校                  ア 外部機関との連携                  イ 働き方改革を意識し、業務の適正化と組織的・効率的な学校運営</p>	<p>(1)                  ア・全教員による登校指導の継続実施                  ・遅刻指導・服装指導の徹底を図り、基本的な生活習慣を確立させる。                  イ・カウンセリングマインドを持ち、共感的な姿勢で生徒の日常の教育相談を進める。                  ・「高校生活支援カード」を活用し教育支援委員会(週1回)において、課題を抱える生徒の状況を把握し支援を行う。課題を抱える生徒フォローアップ事業などによるSC,SSWとの連携を密にし、生徒支援を行う。また、必要に応じて「個別の教育支援計画」の作成、ケース会議の開催、関係諸機関との連携を図る。</p> <p>ウ・人権教育推進委員会、教育支援委員会が連携し、情報の共有、迅速な対応を図る。</p> <p>(2)                  ア・体育祭、文化祭の企画運営、学校説明会等での活躍の場を一層増やし、生徒会役員をリーダーに据える。                  イ・新入生オリエンテーション、体験入部を実施。                  ・中高連携の部活動交流を行う。                  ・大会やコンクール入賞の部の支援を行い、さらなる活性化をめざす。</p> <p>(3)                  ア・改編・広報PTコア会議(週1回)を実施し、総合学科の教育内容の充実をはかり、広報活動を組織的に行う。                  イ・地域のイベント等への積極的参加                  ・生徒会役員、部活動部員を中心に地域清掃等へのボランティア参加                  ・中高連携、地域連携授業をさらに充実させ、積極的に学校の情報を中学校や保護者に発信すると共に、開かれた学校づくりを推進する。</p> <p>(4)                  ア・SC,SSWや外部機関と連携し、組織的な生徒支援を行う。                  イ・働き方改革を意識し、成美マニュアル(仮称)を活用し、チーム成美として組織的な学校運営をめざす。</p>	<p>(1)                  ア・生徒一人当たりの遅刻回数5回以下(平成30年度6.8回)                  ・生徒の懲戒件数15件(平成30年度27件)                  ・生徒向け学校教育自己診断の基本的な生活習慣の確立に関する肯定度72%以上(平成30年度70%)                  イ・生徒向け学校教育自己診断の教育相談に関する項目における肯定率55%(平成30年度54%)</p> <p>(2)                  ア 生徒向け学校教育自己診断における生徒会活動に関する肯定度80%以上をめざす。(平成30年度74%)                  イ・部活動加入率50%をめざす。(平成30年度42.1%)                  ・大会やコンクールの入賞数10以上(平成29年度47)                  ・中高連携部活動交流5回以上(平成30年度10回)</p> <p>(3)                  ア・近隣中学校の訪問5回以上実施(平成30年度9回)                  イ・地域のイベント参加数25件以上(平成30年度33回)                  ・校区一斉清掃活動などの参加各15名以上(平成30年度6名)                  ・HP、ブログなど家庭への情報発信を充実させ、学校教育自己診断アンケートの情報発信の肯定度70%以上をめざす。(平成30年度68%)</p> <p>(4)「成美マニュアル(仮称)」の読み合わせを丁寧に行い、チーム成美として組織的に動く。</p>	<p>(1)                  ア・遅刻率(生徒一人当たりの遅刻回数)は、昨年度より増加した。( )家庭との連携を深め生活改善を図っていく必要がある。                  ・生徒懲戒件数は昨年度より減少したが、目標値は達成できなかった。( )道徳教育等を通して規範意識の更なる醸成を図る。                  ・基本的な生活習慣の確立に関する肯定度は74%であった。(○)</p> <p>イ・教育相談に関して「担任の先生以外に保健室等で悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」60%と、昨年度より6ポイント上昇した。( )一方で4割の生徒は、そう感じていなかったり相談できずにいる。さらに改善をめざさねばならない。</p> <p>(2)                  ア・生徒会活動に関する肯定度は76%であった。生徒主体の様々な取組を進めており、今後も継続していきたい。( )                  イ・部活動加入率は、45.2%(前年比3.1ポイント増)であり、目標に届かなかった。( )                  ・大会やコンクールの入賞数は、25となった。放送部：7年連続NHK杯全国高校放送コンテストに進出した、硬式テニス部：堺市民大会など多くの大会で表彰された。美術部：大阪府高等学校美術工芸展で奨励賞となった。中国文化春暁倶楽部：50回以上の公演を行い、四天王寺ワッソにも出演した。( )                  ・中高連携部活動交流を6回実施した。( )</p> <p>(3)                  ア・近隣中学校の訪問を10回行い、中学校との連携を大切にすることで、教育活動へ活かすことができた。( )                  イ・地域のイベント参加数51件となり、様々なイベントへの参加があった。( )                  ・校区一斉清掃活動などは、考查1週間前と重なり生徒が参加できない時もあったが、生徒会・テニス部・ソフトテニス部生徒21名が参加して清掃活動を行った。( )                  ・保護者向け学校教育自己診断における家庭への情報発信各項目の肯定率は67%であった。きめ細かな情報発信に努めていきたい。( )</p> <p>(4)                  ア・SC,SSWや市町村福祉関係課及び子ども相談所などと緊密に連携した支援体制を整えて、支援活動を行うことができた。( )                  イ・年度当初に全教職員で成美マニュアルを読み合わせて、共通認識の構築を行い、様々な場面で活用している。( )</p>
--	--	---	--	---